

共同礼拝

2024年7月14日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 佐藤裕子 香西愛(夕)

前 奏

招 詞 詩 編 29編1b～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 110編 1～7節 (旧952)

マタイによる福音書22章41～46節

(新44)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 66

説 教 「自分は誰に救われるのか」

牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 333

献 金

頌 栄 544

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

7月の祈り

聖霊の導きを受けて、上にあるものを求め、希望に生きることのできるように。

混迷の時代にあつて、御言葉を灯として、信仰の歩みを積み重ねることができるように。

礼拝、祈禱会、教会学校が力づけられるように。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

主の御支配のもとに教会が整えられるように。教会の務めに立てられ、仕える人々が支えられるように。

幼稚園の働き、働き人、子どもたちと家庭が守られ、その使命が果たされるように。

天候不順の中、高齢の兄弟姉妹が守られるように。

「自分は誰に救われるのか」 高橋和人

マタイによる福音書22章41～46節

主イエスの神殿での論争の締めくくりになる。主イエスはファリサイ派にメシアのことを尋ねる。メシア=キリストへの待望は人々の深いところに静かに浸透していた。特に、抑圧された時代に解放者の登場が期待されていた。言行録5:36, 37にはテウダやユダの名が出ている。

主イエスはメシアが「だれの子だろうか」と問う。子はその姿を受け継ぐ者。彼らは「ダビデの子」だと答える。ダビデはイスラエルの栄光、王権と繁栄の象徴であった。同時に詩編に見られる信仰姿勢、神にへりくだるものとして受け止められた。

特にナタンの預言(サム下7:16)、イザヤ11:1

の「エッサイの株」、エレミヤ23:5「ダビデのために正しい若枝を起こす」とメシアはダビデの家系に結び付けられた。人々は神のメシアを期待した。

主イエスはさらに「ダビデは、霊を受けてメシアを主と呼んでいるのだろうか」と詩編110を引用する。ダビデがメシアを主と呼ぶ以上、メシアはダビデの子以上のお方だというのだ。

主イエスはダビデの子と告白され(1:1、9:27、15:22、20:30)、ペトロも「あなたはメシア生ける神の子です」(16:16)と告白する。新約は主イエスがダビデの子メシアであることははっきりさせている。

主が引用された詩編には「わたしの右の座に着きなさい」と記されている。それは、復活の主が父なる神の右に座されることを示す。新たなメシアの姿だ。ダビデの子であり、神の右におられる方だ。

それはわれらの目を上に上げさせる。「上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます」(コロサイ3:1)と。そこにメシアの姿がある。救われた者の生き方は上にあるそのお姿を見上げることにある。そのために「上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい」(コロ3:2)といわれる。

信仰者の生き方は頭を上げることにある。地上のもの力とその空しさを知っているからだ。しかし、人は地上の生き方が身に付いている。それを見分ける必要がある。

主が真にメシアとしてされたことは、罪と死からの解放であった。苦難の僕(イザヤ53)の姿を真のメシアの姿として心に留める必要がある。

礼拝は、われらの目を地上のものから上にあげ、頭を上げさせる。罪赦されて生きる望みは、常に更新されなければならない。礼拝が新たな礼拝に向けて目を上げて生きる力となる。